

2014 年度 立命館大学大学院
先端総合学術研究科（一貫制博士課程）

一般入学試験問題

論文

入試方式	領域	試験時間	解答方法
一般入学試験	共生	90 分	問題 1、問題 2、問題 3 の すべてを解答

(途中退室はできません)

【解答にあたっての注意】

1. 解答は設問ごとに指定の答案用紙を使用すること。
2. 配布されたすべての答案用紙に受験番号・氏名を記入すること。
3. 試験中に気分が悪くなった場合は、静かに手を挙げて監督者に知らせること。

* この問題冊子は、試験終了後に回収します。

2014年2月8日(土)実施

2014年度 立命館大学大学院 先端総合学術研究科 2月一般入学試験
(共生領域)

以下の文章を読み、問1、問2を解答せよ。

フィールドワークというのは不思議な営為だ。異なる土地へ出かけ、そこで生活を営む人々のあいだに入り込み、何がしかの理解を得るという営みは、一種の魔法をとまなわなければならないものではない。

フィールド調査にでかけると、琵琶湖畔の村であるいはアフリカの山村で、そこに居住する人々と出会い語り合う。そのプロセスは、正直、まとまりのないものだ。意味のはっきりわからない説明、お互い矛盾する解釈の言葉。ときには同じ語り手の口からまったく矛盾した説明や解釈を聞くこともある。これがフィールドのある意味での真実である。

ところが、①フィールドワークの「成果」はたいていの場合、この真実に目をつむる。これをうやむやにしてしまう「魔法」を使うことになるのだ。まず得られた「語り」が都合よく取捨選択される。そして現場で得られた「つじつまのあわないこと」が首尾一貫した論理の秩序のなかで再構成されてしまう。ここで今、考えようとしている環境問題の現場においても、こうした魔術を頻繁にみることができる。

もう少し具体的に述べてみよう。たとえば、下水道の導入や廃棄物処理場の建設といったある事件を契機として、地域住民のなかに賛成派、反対派、中間派といったグループ分けが進行することがある。この状況に対して、住民の職業、学歴、世代、性別、支持政党……といった属性を次々にとりだして、グループ分けを論理的にあるいは客観的に説明することは可能である。ある属性をもった人たちは、それに対応した特定の考え方をもち傾向があるので、ある特定の集団・組織に加わっているのだ、という具合に。

しかし、地域に生活する人々が、こうした「分析の論理」に従うことなく、語ったり行動したりすることをみつけたのは、それほど骨の折れる仕事ではない。とくに三年とか五年とかの時間の経過をとれば、その仕事はいつそう容易になる。あるとき、口をきわめて反対派を攻撃し地域開発の夢を代弁していた人が、「米は命」と言って農地を守る側に転じたり、頑固な革新政党支持者が、「村はまとまらにゃならん」と言って大勢である保守党支持に転替えしたりすることは、よくあるフィールドの経験である。

この「豹変」はいったい何なのだろうか。この「豹変」は、たんなる気まぐれとしてとらえるべきではない。むしろ、②この「豹変」の奥にある、何かをこそ分析の射程に入れなければならないのである。③何らかの属性（職業、出自……）に規定された個人が、ある利害や理念に従って合理的に判断を下し語り行動する、という人間認識の回路（人間観）そのものを議論の俎上に載せる必要がある。

（出典：松田 素二『日常人類学宣言！—生活世界の深層へ／から』世界思想社、148-149頁、2009年）

問1：下線部①フィールドで遭遇した出来事や人びとの「語り」を都合よく取捨選択して記述することの問題点について、自由に論述せよ（800字以内）

問2：下線部②の「人々の「豹変」の奥にある、何か」を下線部③の指摘を踏まえて明らかにするために、あなたならば、どのような調査を試みるか（あるいはどのような記述の方法を試みるか）、身近な事例を挙げながら、具体的に記述せよ（字数制限なし）。

問3：以下の組み合わせは、「共生」領域の研究において重要な専門用語である。以下の①～⑫の用語のセットから3つを選び、それぞれの用語の違いを説明せよ（それぞれ500字以内）。

- ① 文化相対主義と多文化主義
- ② マイノリティとサバルタン
- ③ 移民とディアスポラ
- ④ グローバル化と国際化
- ⑤ グローカリゼーションとローカル化
- ⑥ トランスナショナリズムとグローバル市民社会
- ⑦ 近代世界システム論と従属理論
- ⑧ 本質主義と戦略的本質主義
- ⑨ 自文化中心主義とオリエンタリズム
- ⑩ 文化帝国主義とポストコロニアリズム
- ⑪ ピジン言語とクレオール言語
- ⑫ ネグリチュードと反人種主義